

巻頭言

南本長穂先生のお働きに感謝して

学長 村 田 治

関西学院大学における教職課程の歴史は1924年の中等学校教員無試験検定資格の認可に始まり、「開放免許制」を定めた1949年の教育職員免許法を経て、今日まで幾多の学校教員を世に送り出してきました。建学の精神たるキリスト教主義を胸に刻んだ同窓教員は今も三千人にのぼるといわれています。この本学の教員養成の要である教職教育研究センターに南本長穂教授をお迎えしたのは2000年4月のことでした。

南本教授は1942年に徳島大学教育学部小学校教員養成課程をご卒業後、広島大学大学院教育学研究科教育学専攻の修士課程・博士課程に進まれ、1976年4月より愛媛大学教育学部へ助手として着任されました。愛媛大学教育学部および同教育学研究科において教授まで昇進を重ねられ、愛媛大学教育学部附属中学校校長などの要職を務められました。またこの間に、広島大学に提出された論文「教師の職業的社会的実証的研究」によって、博士（教育学）の学位を取得されました。

2000年の関西学院大学へのご着任は、教務部教職課程室の改組による教職教育研究センターの発足（1999年）に伴うものでした。2002年からは文学研究科博士課程前期指導教員も兼任していただきました。ご在任中には、文学研究科教育学専攻学校教育学コースの開設、同コースの総合心理学専攻学校教育学領域への改組、教員免許状更新講習の開講、そして学校法人関西学院と学校法人聖和大学の合併に基づく教育学部の開設など、教員養成課程に関わる改革が続きましたが、その間も南本教授には多大なご尽力を賜りました。

南本教授のお名前は、教育社会学のご研究によって広く知られていらっしゃいます。高名な教育社会学者である新堀通也先生の薫陶を受けられた広島大学大学院のご在籍時より、長年にわたって、教育社会学研究の第一線で幾多の研究成果を世に送り出されました。職業としての教師、子どもの集団学習、高等学校の教育経営などを対象としたご研究は高く評価されています。日本教育社会学会、日本教育学会、日本子ども社会学会、日本特別活動学会、日本協同教育学会といった学会で理事を務められ、また日本学術振興会の科学研究費委員会専門委員を務められたことは、その証左といえるでしょう。また、より学校現場に近い活動としては、1975年より参加されている「全国個を生かし集団を育てる学習研究協議

会」が挙げられましょう。子どもたちが個としても集団としても生き生きとできる学校づくりに取り組まれ、2011年12月からは副会長もお務めになっています。

こうした研究活動によって磨き上げられたご賢察は教員養成にも活かされました。南本教授は教育社会学の研究書だけでなく教員養成課程用の教科書の執筆にも取り組まれ、その教科書は複数の大学で使用されています。そして担当された「教職概論」「学校教育論」「特別活動論」などの講義では、現代の学校や教師をめぐる最新の研究成果を示しながら、あるべき教師の姿、学校の姿の思索へと学生を導いていらっしゃいました。南本教授は研究と教育の一致という大学教育の理念を生きられたといっても過言ではないでしょう。

現在、関西学院は幼稚園から大学院までを擁する総合学園となり、関西学院大学では幼・保・小・中・高の教員養成と研究者養成を行っています。教育者の一貫した養成が可能な数少ない私立大学のひとつとなりましたが、教育者養成を取り巻く現状は安穩とはいえません。グローバル化や少子化といった社会的問題とともに、学力観の再定義や教員の質的向上を課せられた学校教育は大きな改革の中にあります。グローバル人材育成や高大接続改革などにおいて本学はその先便をつけておりますが、教育職員免許法をはじめとする一連の法改正と学習指導要領の改訂を迎えた教員養成においても、さらなる充実をはかる必要があります。これからという時に先生のご退職を迎えるのは大変残念ではございますが、「Mastery for Service」を体現する世界市民の育成」という本学の教育の使命にご貢献いただきました南本長穂先生に深く感謝申し上げます。